

幼児の生活 アンケート

東アジア 5都市調査 2010

幼児をもつ保護者を対象に

東京・ソウル・北京・上海・台北 それぞれの都市に暮らす幼児は どのような毎日を過ごしているのだろうか

ベネッセ次世代育成研究所では、2010年、首都圏の幼児をもつ保護者の方にご協力をいただき、幼児の生活の様子や保護者の子育て意識について調査を実施しました。

この国内での調査と同時に、ソウル・北京・上海・台北でも同じ内容の調査を行いました。幼児の生活や子育て意識について、各都市で異なる点や共通している点はどこなのか。注目したいデータをご紹介します。



Tokyo



Seoul



Beijing



Shanghai



Taipei

調査概要

調査テーマ

東アジア5都市（東京・ソウル・北京・上海・台北）における幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態

調査項目

子どもの基本的な生活時間／習い事／幼稚園・保育園への要望／母親の教育観・子育て観／子どもの将来への期待／今、子育てで力を入れていること／母親の子育て意識／父親の家事・育児参加など

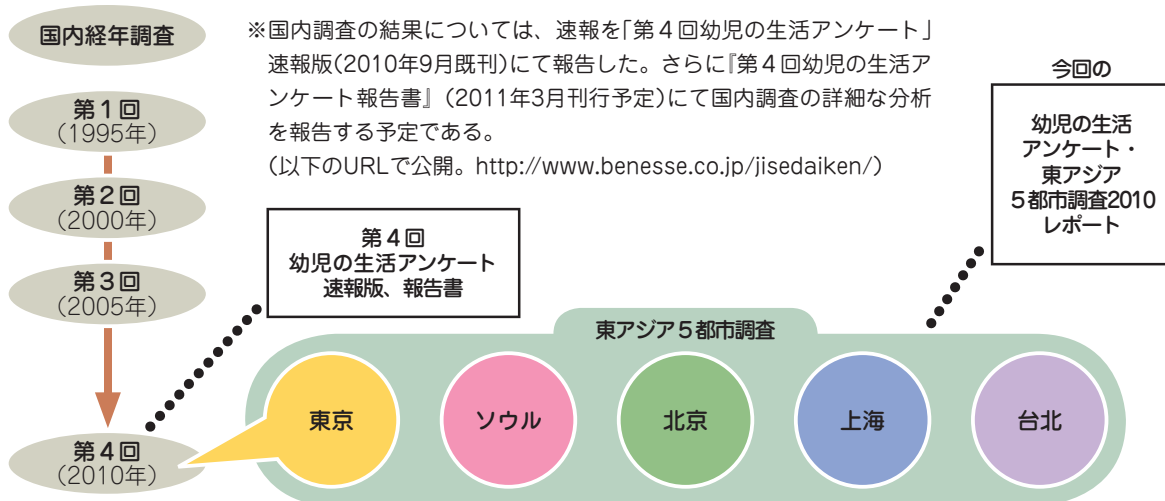
調査時期・対象・地域・方法

	東京	ソウル	北京	上海	台北
調査時期	2010年3月	2010年2～3月	2010年3～5月	2010年3～5月	2010年3～4月
調査対象	3～6歳の就学前の幼児をもつ保護者				
配布数	3,805	23,643	33,304	29,671	9,029
有効回答数	1,693	969	765	1,073	1,745
調査地域（※1）	東京駅から40km圏内の市区町村（※2）	ソウル市、京畿道	北京市	上海市	台北市、台北縣、基隆市、桃園縣
調査方法	郵送法 （自記式アンケートを郵送により配布・回収）	インターネット調査	郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）		

※1：東京・ソウル・台北での調査地域は、各都市を中心にして周辺地域を含んでいる。ただし、本レポートでは、それぞれ「東京」「ソウル」「台北」と表記する。

※2：「第4回幼児の生活アンケート」の調査・分析対象である、首都圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）のサンプルのうち、条件に合致するサンプルを「東京」として抜粋して、分析を行った。

分析枠組みとサンプル構成



	東京	ソウル	北京	上海	台北
全体	1,693 (1,653)	969 (896)	765 (626)	1,073 (855)	1,745 (1,563)
3歳児	418	243	213	282	599
4歳児	462	265	215	239	355
5歳児	391	260	225	275	438
6歳児	422	201	112	277	353

※（ ）内は母親のサンプル数。 ※「3歳児」は、3歳0か月～11か月。「4歳児」「5歳児」「6歳児」も同様。

(名)

分析について

分析の対象

- 調査方法は、各都市の状況を踏まえているため、異なっている。また、以下の点に注意されたい。
 - ・北京・上海・台北の一部では、回収数確保のため、調査票を追加で発送した。
 - ・ソウルのインターネット調査では、予定回収数に到達した段階で調査を終了した。
- 調査への回答者は、子どもの教育や子育てへの関心が高い保護者である可能性が考えられるが、各都市の状況によって、その程度は異なることが考えられる。調査結果を読む際には、この点に注意を払う必要がある。

数値

- データの精度を高めるため、比推定を用い、調査対象の属性別構成比を加工した。比推定で用いるウェイトは、子どもの性別（2区分）×子どもの年齢別（4区分）の8区分に分割して算出した。数値は、サンプル数を除き、すべてウェイトをつけて算出した値である。
- ソウルではインターネットで調査を実施したため、回答が「無答不明」という状況が生じない（一部を除く）。それに合わせて、他の都市も回答が「無答不明」であった場合には、その設問における集計母数から除外した。

分析のスタンス

- 幼児の生活や保護者の子育て意識について、各都市の興味深い特徴が浮かび上がっている。こうした特徴は、各都市の文化・社会経済的背景などの影響が大きく、また子育てをめぐる諸制度、価値観が異なっていることから単純に比較することは難しい。そのため本レポートでは、単純集計をもとにできるだけ解釈を加えず、わかりやすく示すことを最優先とした。

就学前の保育・教育の状況

- 韓国における正規の就学前機関は、0歳～5歳児を対象とする保育施設（韓国語で「オリニジブ」）と、3歳～5歳児を対象とする幼稚園がある。保育施設の内訳としては、一般の保育所（国公立、民間）に加え、職場保育施設、家庭保育施設、父母共同保育施設などがある。また、韓国に特徴的なのは、これ以外に、「学院（ハゴン）」という民間の幼児教室（幼児向けの民間塾）に少なからぬ幼児が通っている点である。例えば、「美術学院」では、午前中は絵画を習い、午後は英語や教育プログラムを提供し、預かり保育というサービスを提供しているところもある。
- 中国における就学前機関は、主として託児所、幼稚園と就学前クラスである。もともと託児所は0歳～2歳の乳幼児を対象とする保育機関、幼稚園は3歳～5歳の幼児を対象とする教育機関という分担であるが、現在では、託児所と幼稚園が教育機関として一体化する動きがみられる。具体的には単独の託児所が減少し、幼稚園が0歳（実際には1歳半または2歳）～5歳の幼児を教育する方向に移りつつある。就学前クラスは、主に農村部の小学校に付設され、現地の実情にあわせて1年～3年間の幅がある。
- 台湾における就学前機関は、主として託児所と幼稚園である。託児所は0歳～5歳の幼児を対象とする保育機関、幼稚園は4歳～5歳の幼児を対象とする教育機関という分担であるが、託児所と幼稚園と実質的には機能（幼児の在籍年齢や保育時間など）がほぼ同じであること、またどんな機関に通っている幼児に対しても、質の高い教育を提供すべきであるという考えなどから、現在では、「幼託整合」（幼保一元化）の動きがみられる。

国（地域）	日本	韓国	中国	台湾
就園率 ¹⁾	日本全体 幼稚園 3歳 39.2% 4歳以上 56.0% 保育所 3歳 40.4% 4歳以上 41.6%	韓国全体 幼稚園 4～5歳 58.3% 保育施設 3歳 50.0% 4歳 42.3% 5歳 34.0%	北京 幼稚園 3～5歳 87.9% 上海 幼稚園 3～5歳 99.9%	台北 幼稚園 2～6歳 24.7% 託児所 2～6歳 35.2%
合計特殊出生率 ²⁾	1.37（2009年）	1.19（2008年）	1.7（2005年）	1.05（2008年）

1) 日本…「保育白書2010年版」（全国保育団体連絡会・保育研究所）

韓国…「教育統計年報(2009)」（教育科学技術部・韓国教育開発院）「保育施設および利用者統計(2008)」（保健福祉部）

中国…北京「北京市教育事業統計年報」（2004年） 上海「2004年上海市教育工作年報」

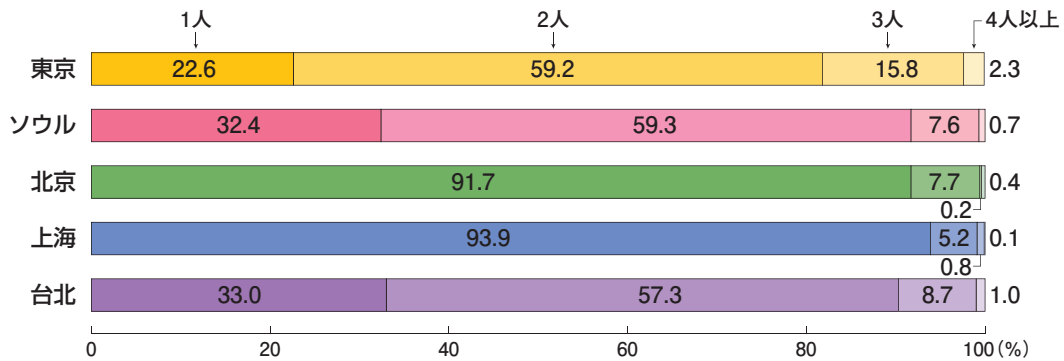
台湾…「臺北市幼稚園及托兒所概況」（臺北市政府2010年）

2) 「平成21年(2009)人口動態統計(確定数)の概況」（厚生労働省）「平成22年版 子ども・子育て白書」（内閣府）「平成19年版 少子化社会白書」（内閣府）

基本属性

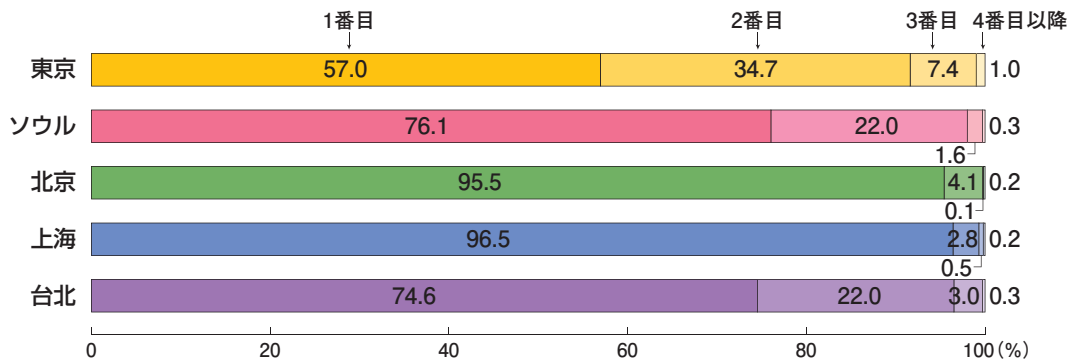
1

子どものきょうだい数



2

子どもの出生順位



3

子どもの就園状況

	東京	ソウル	北京	上海	台北
幼稚園(北京・上海は「幼児園」)	56.3	41.4	90.5	90.8	59.8
保育園(ソウルは「保育施設」、北京・上海・台北は「託児所」)	22.9	43.3	1.2	3.9	13.7
その他の園・施設(ソウルは「類似機関」)	1.9	9.2	5.3	0.5	0.4
園や施設には通っていない(未就園)	18.9	6.1	3.0	4.8	26.1

(%)

4

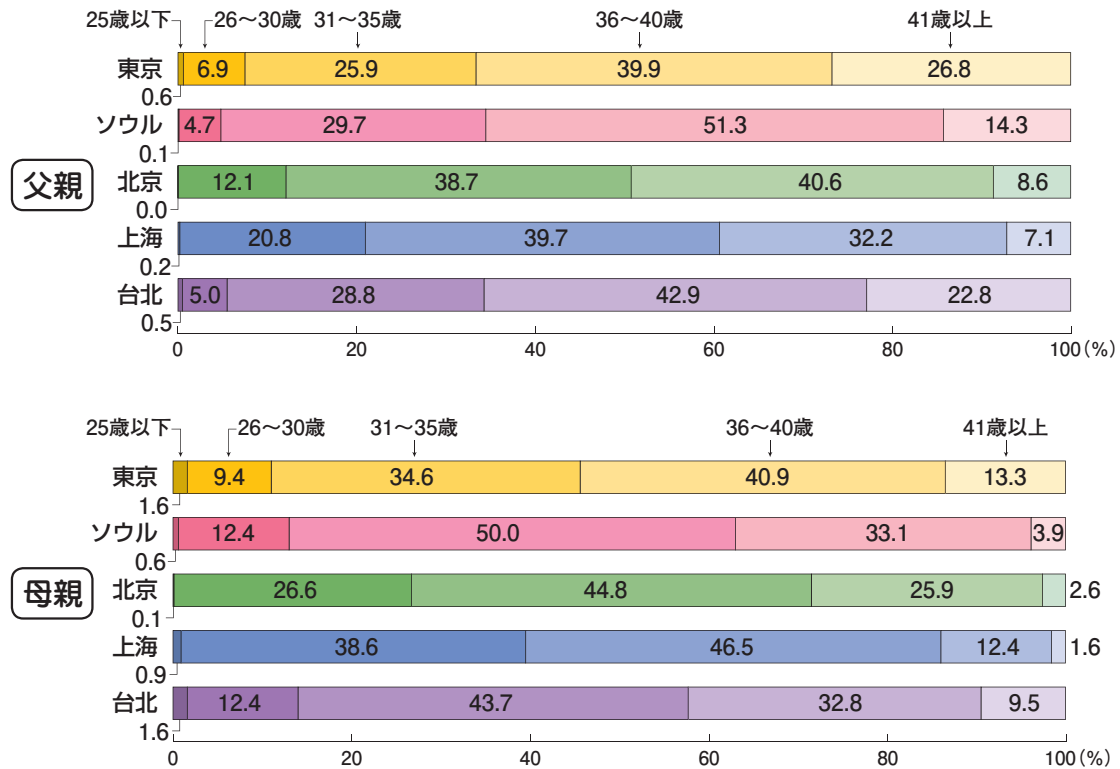
母親の就業状況

	東京	ソウル	北京	上海	台北
常勤者(フルタイム)	14.7	26.1	72.9	79.9	61.7
パートタイム	18.7	5.3	1.7	0.9	4.5
フリー(在宅ワーク含む)	4.5	8.2	10.3	5.7	3.4
専業主婦	58.0	54.1	10.0	9.9	27.4
産休、育休中や休職中	2.9	2.5	0.1	0.3	1.7
その他	1.3	3.8	5.0	3.3	1.4

(%)

5

父親・母親の年齢



6

父親・母親の最終学歴

	東京	ソウル	北京	上海	台北
中学校(北京・上海は「中学校あるいは中学校以下」)	2.4	0.6	3.4	3.5	4.3
高等学校	24.5	23.8	8.5	10.8	25.2
中等専門学校・技術労働者学校	-	-	7.4	8.0	-
高等専門学校	2.5	-	-	-	-
専門学校	15.3	-	-	-	-
短期大学	1.3	-	-	-	-
専門大学	-	19.9	-	-	-
大学専科	-	-	22.4	27.5	-
専科学校	-	-	-	-	24.5
四年制大学	46.6	42.6	41.3	37.3	28.5
大学院(六年制大学を含む)	6.7	12.7	15.2	11.2	17.1
その他(北京・上海は「成人教育機関」を含む)	0.7	0.4	1.7	1.6	0.4

(%)

	東京	ソウル	北京	上海	台北
中学校(北京・上海は「中学校あるいは中学校以下」)	1.7	0.4	4.5	5.2	1.3
高等学校	23.1	27.1	8.1	9.4	24.9
中等専門学校・技術労働者学校	-	-	7.1	9.0	-
高等専門学校	1.5	-	-	-	-
専門学校	20.1	-	-	-	-
短期大学	27.8	-	-	-	-
専門大学	-	27.0	-	-	-
大学専科	-	-	24.0	33.4	-
専科学校	-	-	-	-	33.9
四年制大学	24.4	37.1	42.7	34.2	31.3
大学院(六年制大学を含む)	1.2	8.0	11.3	6.2	8.4
その他(北京・上海は「成人教育機関」を含む)	0.2	0.4	2.2	2.7	0.2

(%)

※教育制度が異なるため、都市によって選択肢を設けていない箇所は、「-」で示した。「高等学校」には普通高校(科)・職業高校(科)・その他を含む。「中等専門学校」は後期中等段階で4~5年制、「技術労働者学校」は2~3年制。「専科学校」には中学卒業後に進む5年制と高校卒業後に進む2年制がある。

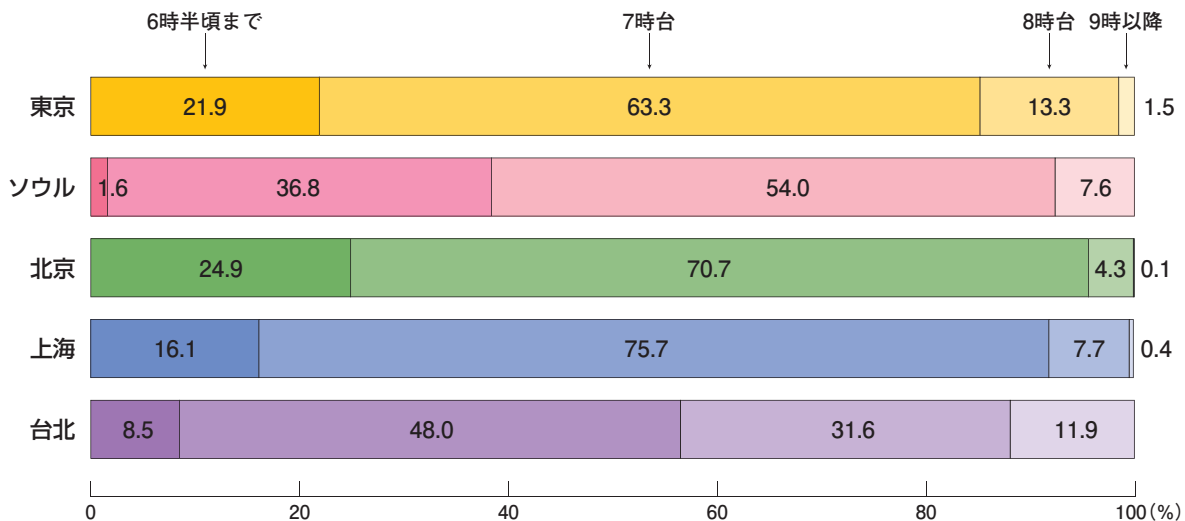
1 幼児の生活

起床時刻と就寝時刻

●平日の起床時刻と就寝時刻をみると、東京・北京・上海は早く、ソウル・台北は遅い。

Q お子様は平日、何時頃に起きますか。

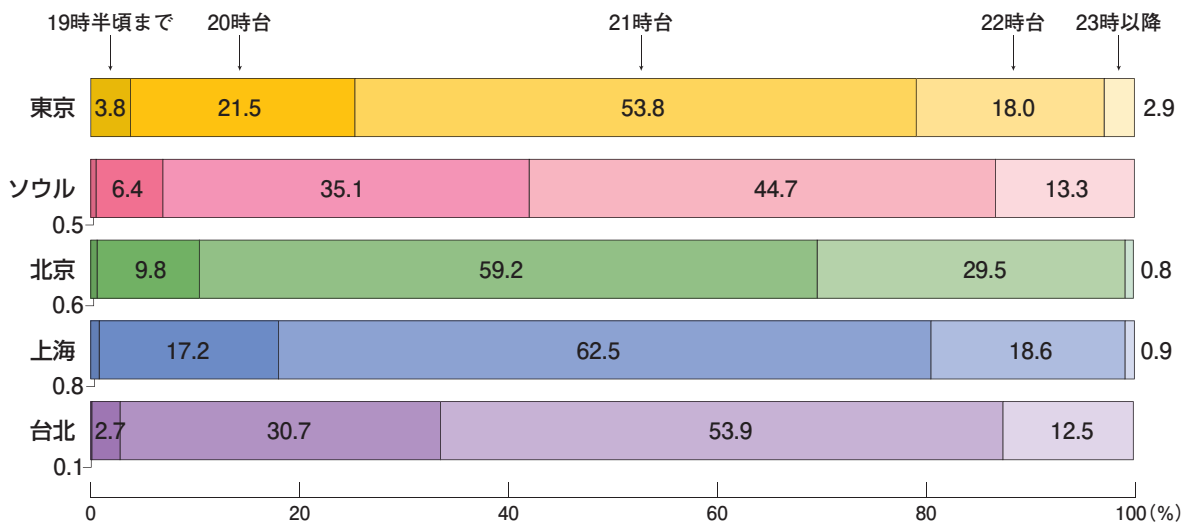
図1-1-1 平日の起床時刻



※「7時台」は、平日の起床時刻について、「7時頃」もしくは「7時半頃」と回答した人の合計。他の時間帯も同様。

Q 夜、何時頃に寝ますか。

図1-1-2 平日の就寝時刻



※「20時台」は、平日の就寝時刻について、「20時頃」もしくは「20時半頃」と回答した人の合計。他の時間帯も同様。

平日の起床時刻をみると、「7時台」以前に起きる幼児の比率は、東京85.2%、北京95.6%、上海91.8%と高いのに対して、ソウル38.4%、台北56.5%と低くなっている。次いで、平日の就寝時刻についてみると、「21時台」

以前に寝る幼児の比率は、東京79.1%、北京69.6%、上海80.5%と高いのに対して、ソウルは42.0%、台北は33.5%である。相対的にみて、早寝早起きの傾向がみられるのは、東京、北京、上海の3都市の幼児である。

1 幼児の生活

睡眠時間

- どの都市でも、平均合計睡眠時間は10～11時間台である。
- 北京・上海・台北では、平均昼寝時間が長い。

Q お子様は平日、何時頃に起きますか。／どれくらい昼寝をしますか。／夜、何時頃に寝ますか。

図1-2-1 平均就寝・起床時刻と平均合計睡眠時間



表1-2-1 平均就寝・起床時刻と平均合計睡眠時間(子どもの年齢別)

		平均就寝時刻	平均夜間睡眠時間	平均起床時刻	平均昼寝時間	平均合計睡眠時間
東京	3歳児	21:18	10時間03分	7:21	1時間01分	11時間04分
	4歳児	21:06	10時間04分	7:10	39分	10時間43分
	5歳児	21:04	10時間02分	7:06	23分	10時間25分
	6歳児	21:11	9時間53分	7:04	12分	10時間05分
ソウル	3歳児	21:56	10時間07分	8:03	1時間07分	11時間14分
	4歳児	21:51	10時間03分	7:54	34分	10時間37分
	5歳児	21:52	10時間03分	7:55	14分	10時間17分
	6歳児	21:51	10時間01分	7:52	12分	10時間13分
北京	3歳児	21:32	9時間37分	7:09	1時間44分	11時間21分
	4歳児	21:25	9時間38分	7:03	1時間41分	11時間19分
	5歳児	21:31	9時間28分	6:59	1時間28分	10時間56分
	6歳児	21:20	9時間33分	6:53	1時間18分	10時間51分
上海	3歳児	21:17	10時間03分	7:20	1時間45分	11時間48分
	4歳児	21:09	9時間57分	7:06	1時間39分	11時間36分
	5歳児	21:16	9時間50分	7:06	1時間33分	11時間23分
	6歳児	21:19	9時間48分	7:07	1時間27分	11時間15分
台北	3歳児	22:12	9時間52分	8:04	1時間33分	11時間25分
	4歳児	22:03	9時間48分	7:51	1時間26分	11時間14分
	5歳児	21:57	9時間34分	7:31	1時間22分	10時間56分
	6歳児	21:54	9時間32分	7:26	1時間21分	10時間53分

※起床時刻、就寝時刻、昼寝時間のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は分析から除外している。

※平均就寝時刻と平均起床時刻は「21時頃」を21時、「23時半以降」を23時30分のように置き換えて算出した。また、平均夜間睡眠時間は、平均就寝時刻と平均起床時刻から算出した。

※平均昼寝時間は「3時間より多い」を3時間30分、「昼寝はしない」を0分のように置き換えて算出した。

※平均合計睡眠時間は、平均夜間睡眠時間と平均昼寝時間から算出した。

平均夜間睡眠時間をみると、もっとも長いのはソウルで10時間04分、次いで東京の10時間00分である。これに対して、もっとも短いのは、北京の9時間34分である。ただし、北京・上海・台北の3都市の幼児は、平均昼寝

時間が1時間30分前後であり、平均合計睡眠時間は11時間台と、10時間台の東京やソウルよりも長い。子どもの年齢別にみると、東京とソウルでは、3歳児のみ昼寝時間が1時間を超えている。

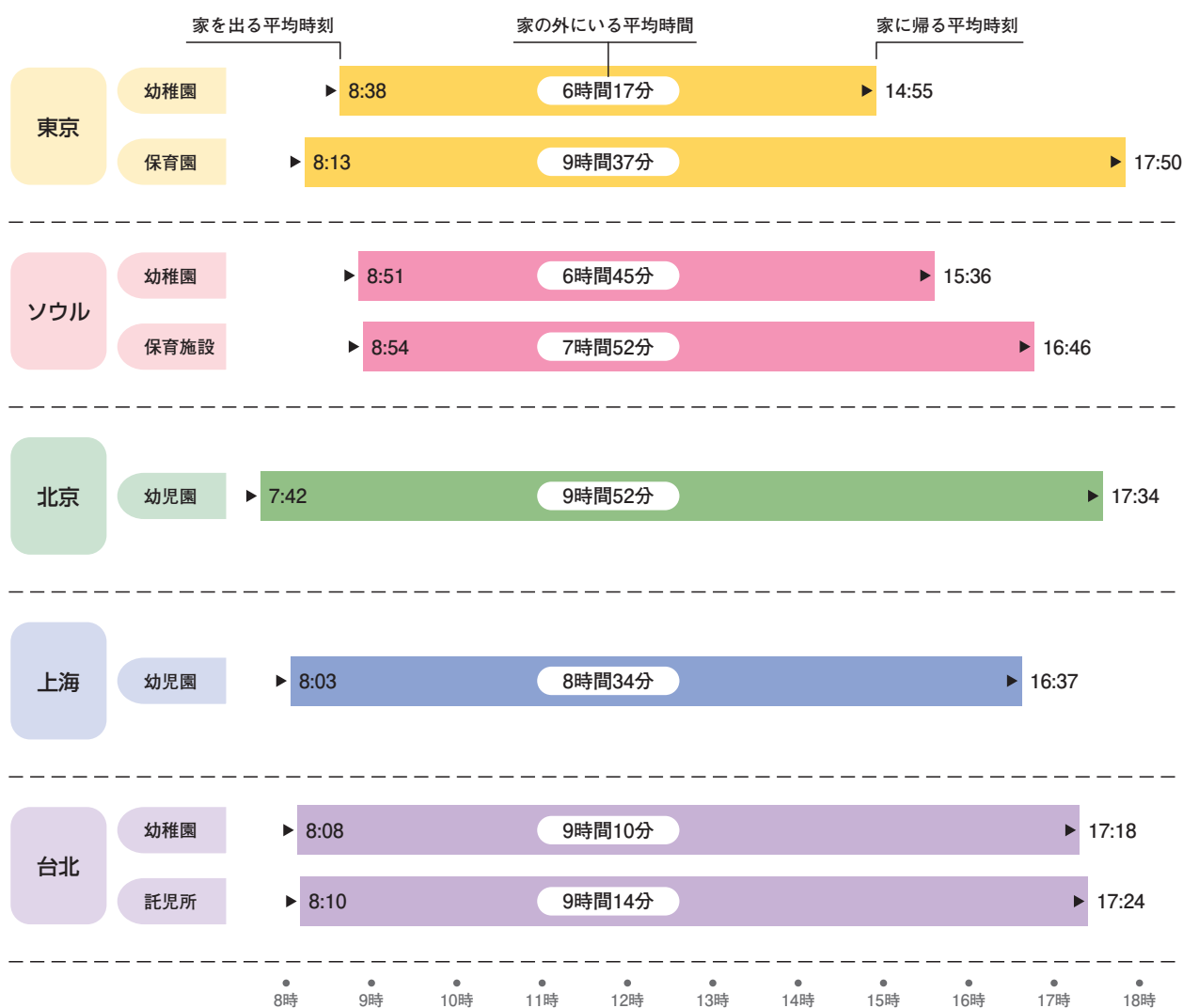
1 幼児の生活

幼稚園・保育園の時間

- 北京・上海・台北の幼児は、家の外にいる時間が8～9時間台である。
- 東京・ソウルは、通園の形態により、家の外にいる時間が異なり、東京では3時間ほどの差がある。
- 家の外にいる時間の最長は、北京の幼稚園に通う幼児、最短は東京の幼稚園児である。

Q 幼稚園・保育園に行くために何時頃、家を出ますか。／幼稚園・保育園から何時頃、帰宅しますか。

図1-3-1 家を出る・家に帰る平均時刻と、通園のため家の外にいる平均時間(就園状況別)



※子どもを園に通わせている人のみ回答。

※家を出る時刻、家に帰る時刻のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は、分析から除外している。

※「18時頃」を18時、「18時半頃」を18時30分、「19時以降」を19時のように置き換えて算出した。

※通園のため家の外にいる平均時間は、家を出る平均時刻と家に帰る平均時刻から算出した。

子どもを幼稚園・保育園などの園・施設に通わせている保護者に、通園のために家を出る時刻、園から家に帰宅する時刻をたずね、幼児が家の外にいる平均時間を算出した。

家の外にいる平均時間は、東京では幼稚園児で6時間17分、保育園児で9時間37分と差が3時間以上であり、ソウルでも幼稚園児で6時間45分、保育施設に通う幼児で

7時間52分と、園の形態による差がみられた。一方、台北は幼稚園児で9時間10分、託児所に通う幼児で9時間14分と園の形態による差は少なく、北京と上海でも、それぞれ9時間52分、8時間34分と幼児が長い時間を家以外の場所で過ごしている様子がうかがえた。東京の幼児は、園の形態によって家の外にいる時間の差が大きいことが特徴といえよう。

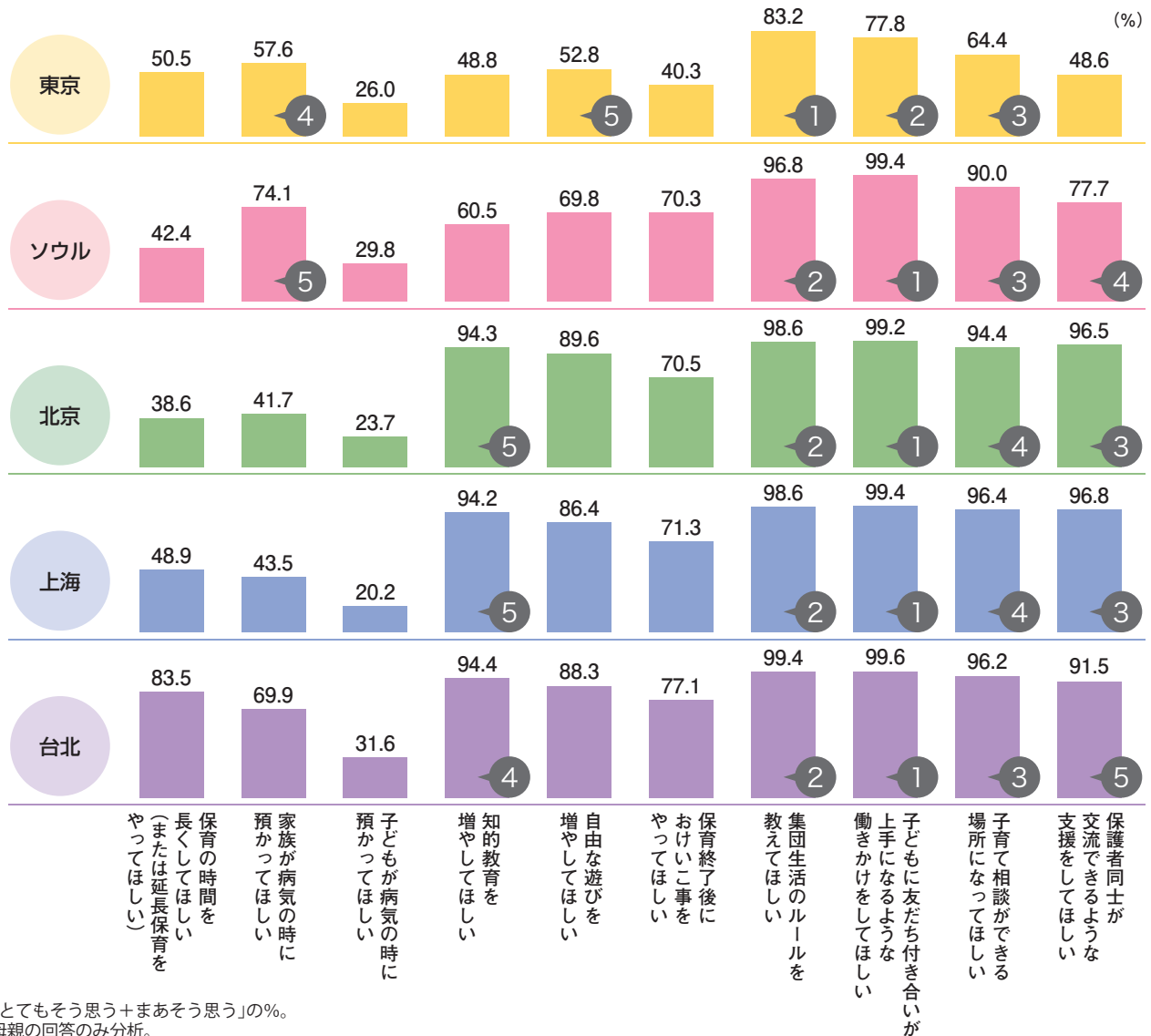
1 幼児の生活

幼稚園・保育園への要望

●どの都市も、「集団生活のルール」「友だち付き合いが上手になる働きかけ」「子育て相談ができる場所」への要望が高い。

Q 現在通っている幼稚園・保育園について、あなたは次のことをどう思いますか。

図1-4-1 幼稚園・保育園への要望



母親に、現在子どもが通っている幼稚園・保育園などの園・施設への要望をたずねた。すべての都市で、上位2位は「集団生活のルール」「友だち付き合いが上手になる働きかけ」であり、「子育て相談ができる場所」も上位であった。どの都市でも、園は幼児が集団生活や友だちとのかわりを学び、保護者が子育て相談をできる場との要望があるようだ。

都市ごとに見ると、北京と上海では「保護者同士の交流支援」「知的教育」「自由な遊び」が高く、台北は加えて

「保育の時間を長く」が高かった。この3都市では幼児が園で過ごす時間が長く、保育内容への要望が高い傾向にある。ソウルは「保護者同士の交流支援」「家族が病気の時の預かり」が高く、保護者支援への要望がうかがえる。一方、東京は全体的に数値が低かった。そのなかで「家族が病気の時の預かり」「保育の時間を長く」など預かりへの要望がみられ、他の都市に比べると「知的教育」や「自由な遊び」、「保護者同士の交流」などが低く、約半数にとどまった。

1 幼児の生活

習い事事情

- 習い事をしている比率は、北京・上海が7割台、ソウルが6割台、東京・台北が5割台である。
- 習い事の種類は、それぞれの都市により異なる。

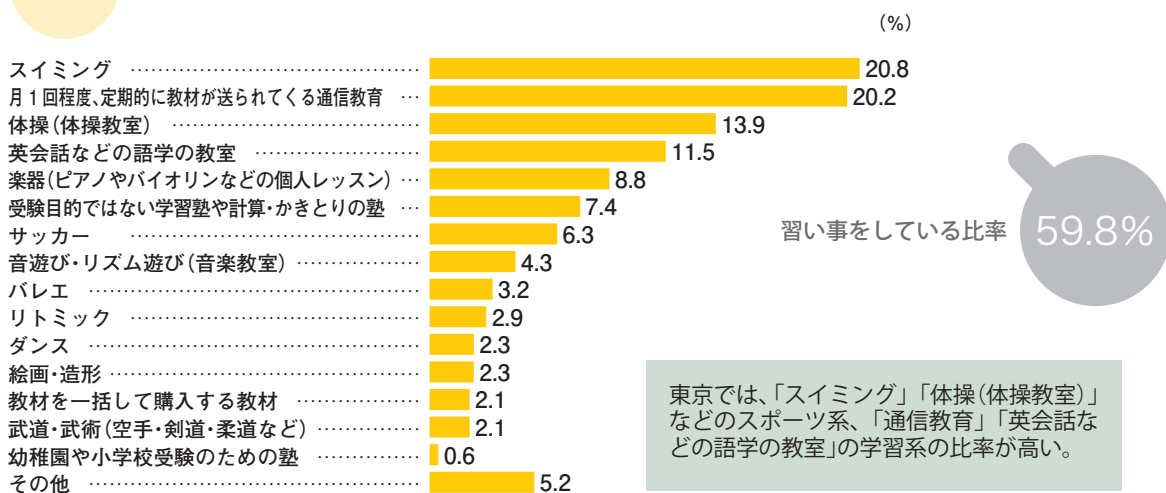
Q お子様は現在、習い事・おけいこ事をしてしていますか。
(幼稚園・保育園で有料で習っているものや、塾・通信教育を含みます)

Q どのような習い事・おけいこ事をしてしていますか。

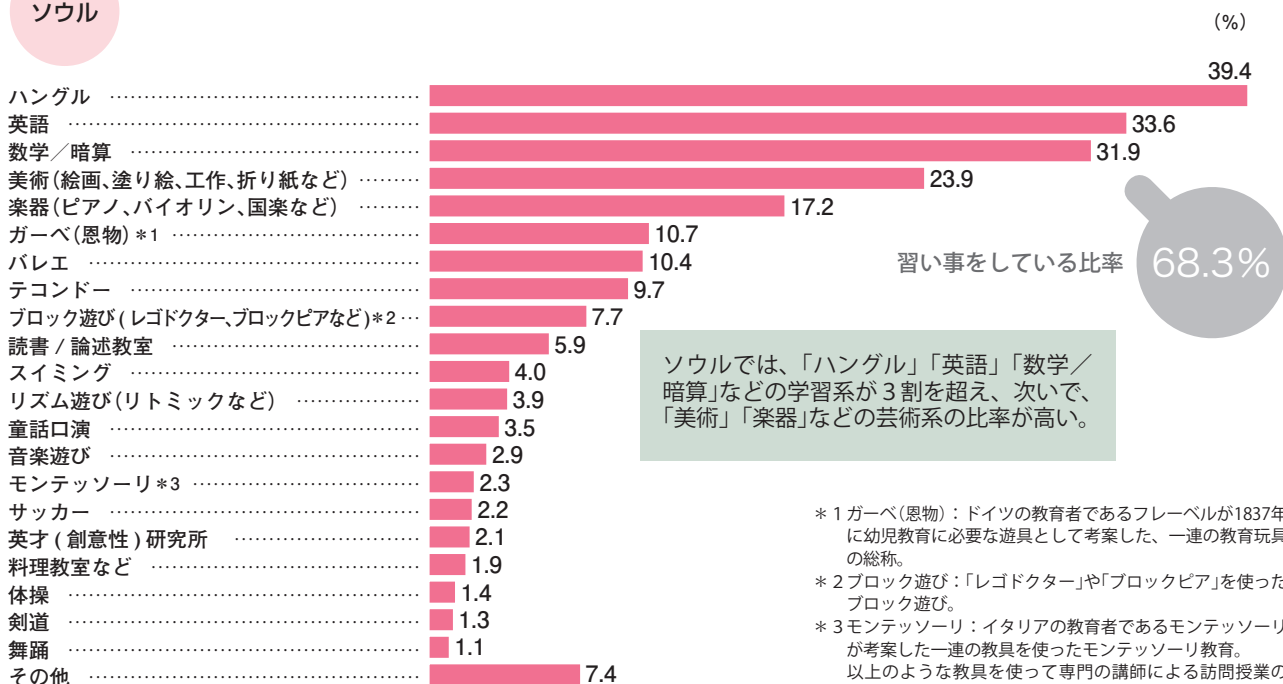
都市の現状に合わせて、習い事の項目を設定した。したがって、都市により、共通している項目もあるが、異なる項目もある。各都市の習い事事情については、下記のとおりである。

図1-5-1 習い事

東京



ソウル



*1 ガーベ(恩物)：ドイツの教育者であるフレーベルが1837年に幼児教育に必要な遊具として考案した、一連の教育玩具の総称。

*2 ブロック遊び：「レゴドクター」や「ブロックピア」を使ったブロック遊び。

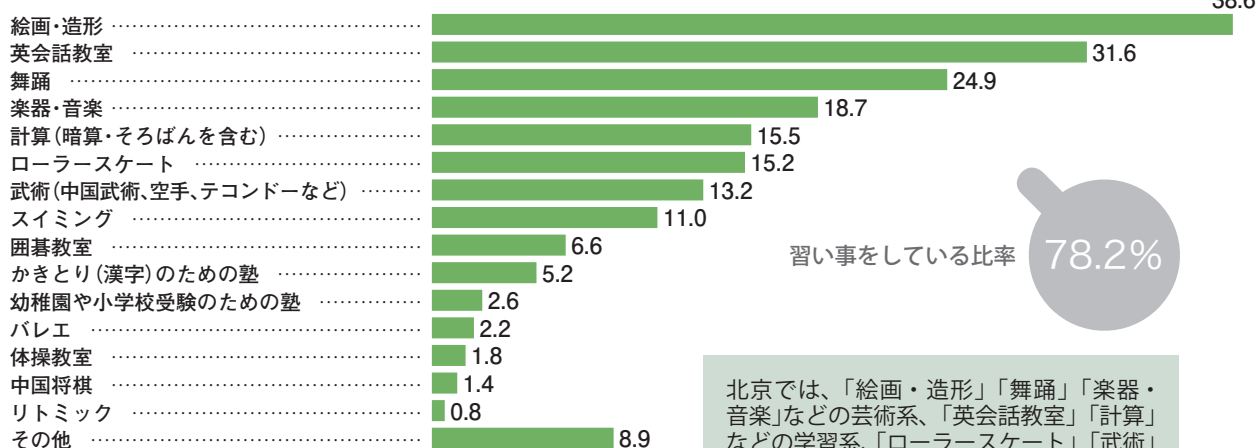
*3 モンテッソーリ：イタリアの教育者であるモンテッソーリが考案した一連の教具を使ったモンテッソーリ教育。以上のような教具を使って専門の講師による訪問授業のサービスも提供していることが多い。

※複数回答。

※現在、習い事をしていないと回答した保護者を含めたすべての保護者の回答を母数としている。

※習い事の種類について、「幼稚園・保育園で有料で習っているもの(保育時間中に習っているものは除く)」と「幼稚園・保育園以外で習っているもの」とに分けてたずねたが、ここでは少なくともどちらか一方で、習っていると回答した比率を示した。

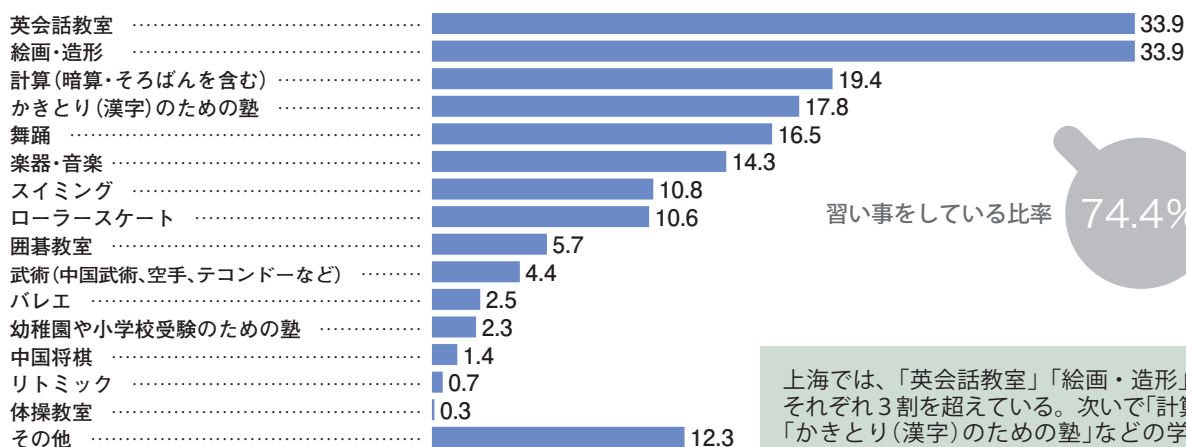
北京



習い事をしている比率 78.2%

北京では、「絵画・造形」「舞踊」「楽器・音楽」などの芸術系、「英会話教室」「計算」などの学習系、「ローラースケート」「武術」「スイミング」などのスポーツ系と、比率が高いジャンルが多岐にわたっている。

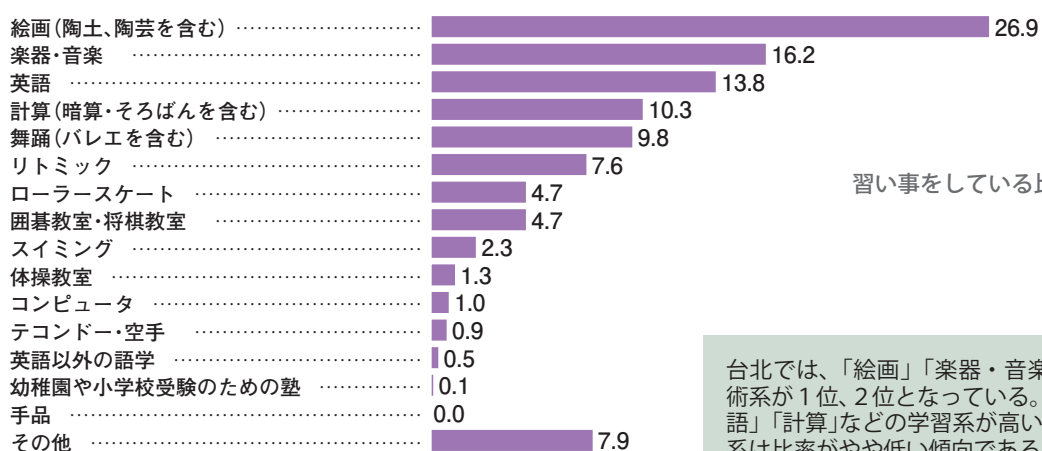
上海



習い事をしている比率 74.4%

上海では、「英会話教室」「絵画・造形」がそれぞれ3割を超えている。次いで「計算」「かきとり(漢字)のための塾」などの学習系、「舞踊」「楽器・音楽」などの芸術系、「スイミング」「ローラースケート」などのスポーツ系と続く。

台北



習い事をしている比率 56.6%

台北では、「絵画」「楽器・音楽」などの芸術系が1位、2位となっている。次いで、「英語」「計算」などの学習系が高い。スポーツ系は比率がやや低い傾向である。

習い事は、各都市によって特徴が少しずつ異なる。都市ごとに比率が高いのは、東京ではスポーツ系と学習系、

ソウルと北京と上海は学習系と芸術系、台北は芸術系だった。

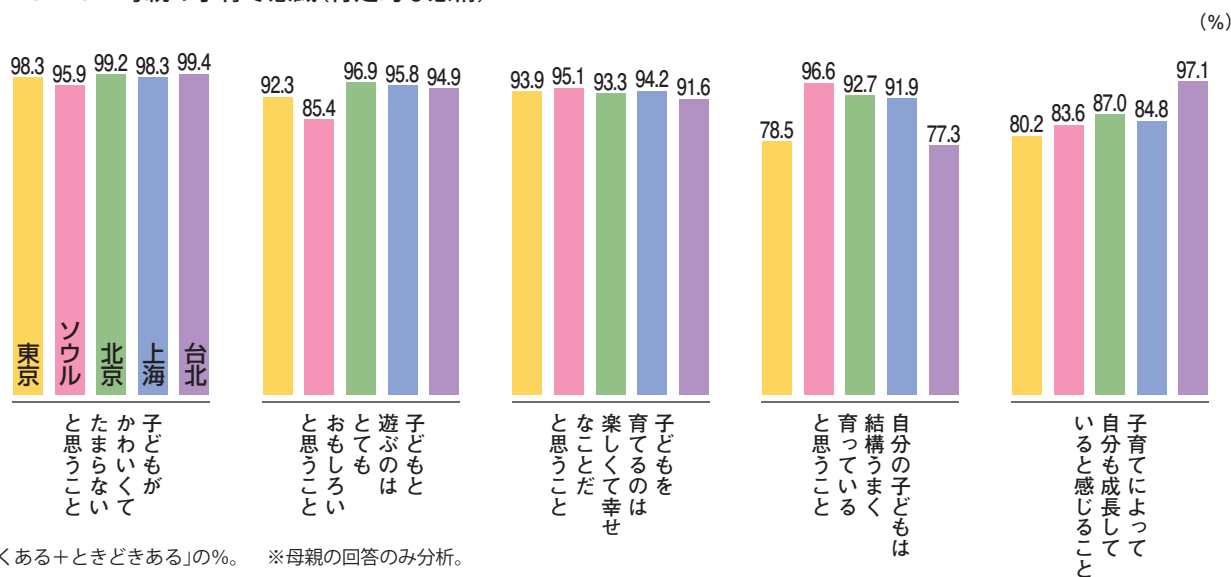
2 母親の意識

母親の子育て意識

- すべての都市で、子育てに対する肯定的な感情は高い。
- すべての都市で、半数以上の母親が「子どものことでどうしたらよいか分からなくなる」「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になる」「子どもがわずらわしくていらいらしてしまう」と回答。
- ソウルでは、「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になる」「子どもを育てるためにがまんばかりしている」「子どものことでどうしたらよいか分からなくなる」が8割以上である。

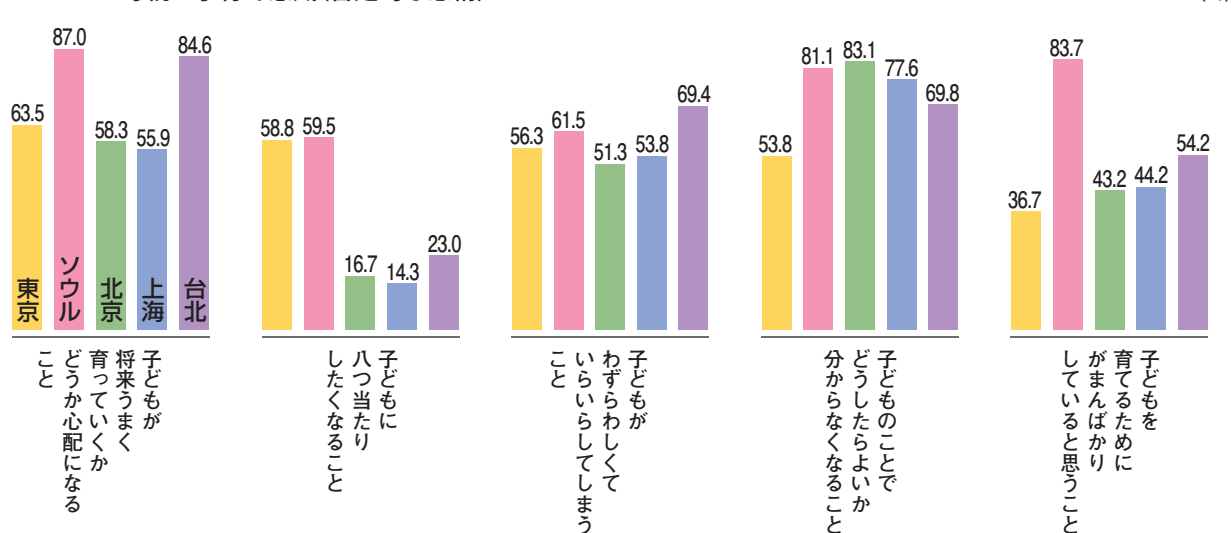
Q あなたは最近、子育てについて次のようなことにお感じになることがありますか。

図2-1-1 母親の子育て意識(肯定的な感情)



※「よくある+ときどきある」の%。 ※母親の回答のみ分析。

図2-1-2 母親の子育て意識(否定的な感情)



※「よくある+ときどきある」の%。 ※母親の回答のみ分析。

母親を対象に、子育て意識について、肯定的な感情と否定的な感情を5項目ずつたずねた。肯定的な感情はすべての都市で高く、子育てや子どもとの関係に満足している様子うかがえる。一方、すべての都市の半数以上の母親が「子どものことでどうしたらよいか分からなくなること」「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること」「子どもがわずらわしくていらいらしてしまうこと」に「ある(よくある+ときどきある)」と回答した。

都市ごとにみると、ソウルで「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること」「子どもを育てるためにがまんばかりしていると思うこと」「子どものことでどうしたらよいか分からなくなること」が8割を超え、台北でも否定的な感情を感じる比率が高かった。東京・北京・上海では否定的な感情は全体的に比率が低かったが、東京の「子どもに八つ当たりしたくなる」はソウルと同様にやや高めであった。

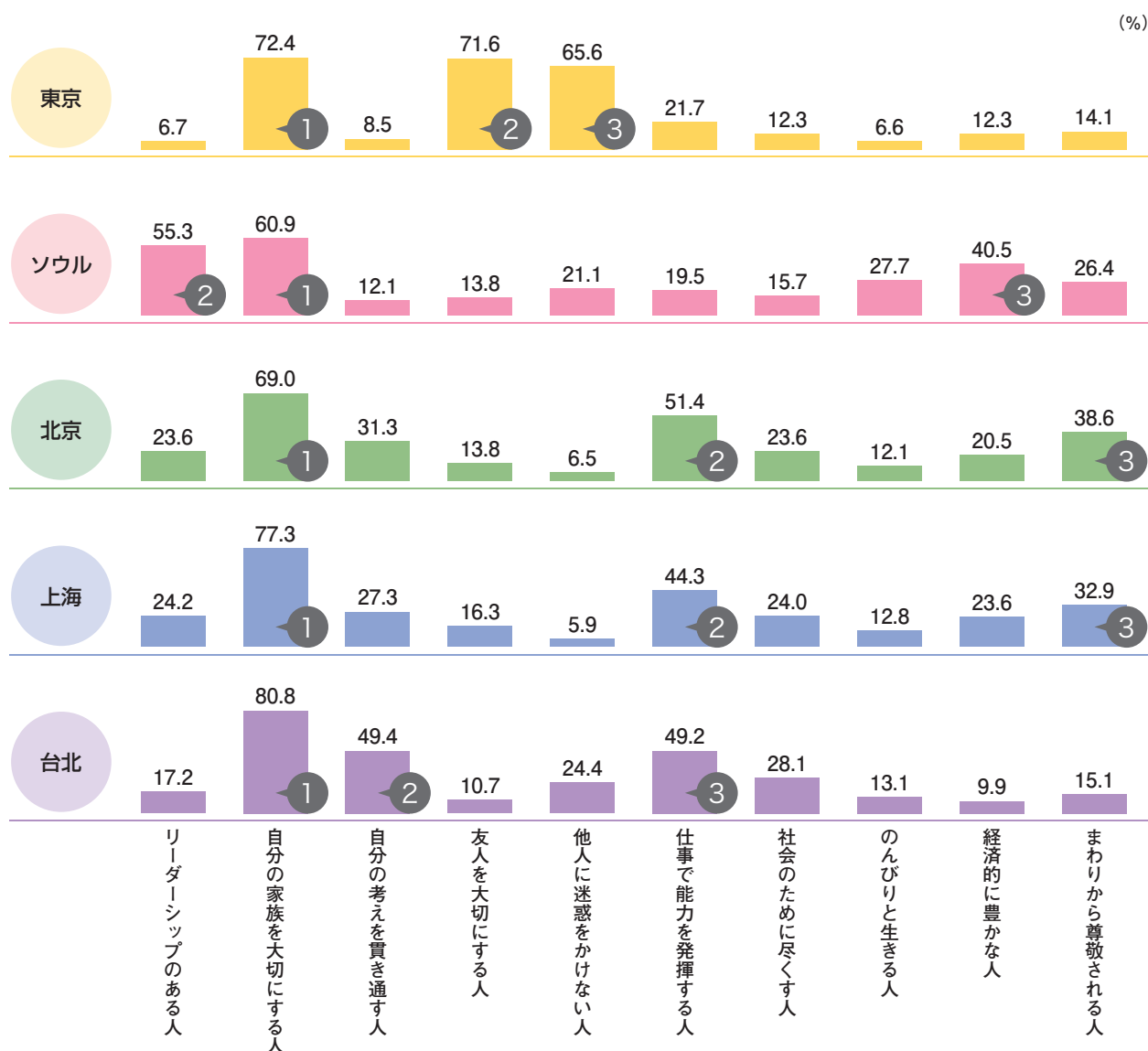
2 母親の意識

子どもの将来に対する期待

- どの都市でも「自分の家族を大切にする人」がもっとも高い。
- 東京は、「友人を大切にする人」「他人に迷惑をかけない人」が高い。
- ソウルは、「リーダーシップのある人」「経済的に豊かな人」が高い。
- 北京・上海・台北は、「仕事で能力を発揮する人」が高い。

Q お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。

図2-2-1 子どもの将来に対する期待



※10項目の中から3つまで選択。

※母親の回答のみ分析。

※各都市の上位3位までを①②③と表示。

※「のんびりと生きる人」について、ソウルでは「精神的に余裕をもってゆっくり生きる人」とたずねている。

母親を対象に、子どもに将来どのような人になってほしいと思うかについて、10項目から3つまで選んでもらった。すべての都市で、「自分の家族を大切にする人」がもっとも高い比率で選ばれた。都市ごとに見ると、東京では「友人を大切にする人」が71.6%、「他人に迷惑をかけない人」が65.6%と自分の周囲に対する気遣いへの期待が集

中した。ソウルでは「リーダーシップのある人」「経済的に豊かな人」、北京と上海では「仕事で能力を発揮する人」「まわりから尊敬される人」、台北では「自分の考えを貫き通す人」「仕事で能力を発揮する人」の比率が高く、子どもの将来に対する期待が都市ごとに異なる様子がうかがえた。

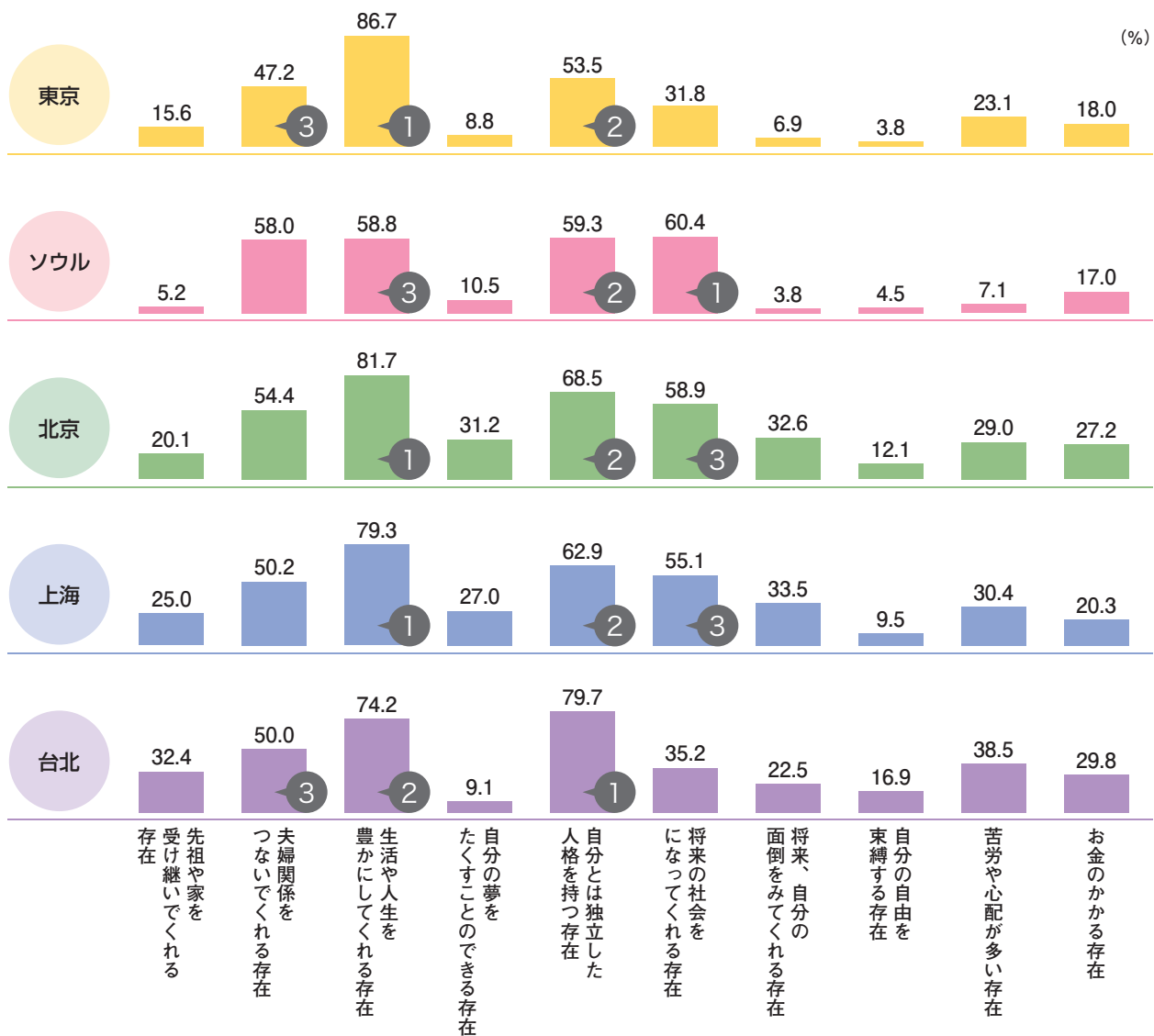
2 母親の意識

子どもの存在

- 子どもは自分にとってどのような存在かについてたずねたところ、5都市に共通して比率が高かったのは、「生活や人生を豊かにしてくれる存在」「自分とは独立した人格を持つ存在」。
- ソウル・北京・上海では、「将来の社会をになってくれる存在」の比率が高いことが目立つ。

Q あなたにとってお子様はどのような存在ですか。

図2-3-1 子どもの存在



※複数回答。

※母親の回答のみ分析。

※各都市の上位3位までを①②③と表示。

母親に、子どもは自分にとってどのような存在かをたずねた。5都市に共通して選択された比率が高かったのは「生活や人生を豊かにしてくれる存在」で、東京・北京・上海では1位、台北では2位、ソウルでは3位だった。また、「自分とは独立した人格を持つ存在」についても、台北で79.7%で1位だったのをはじめ、どの都市でも選

ばれた比率が高かった。「将来の社会をになってくれる存在」は、ソウルでは1位の60.4%で、北京(58.9%)、上海(55.1%)でも高かった。「夫婦関係をつないでくれる存在」も、東京と台北では3位に入るなど、全般的に高かった。

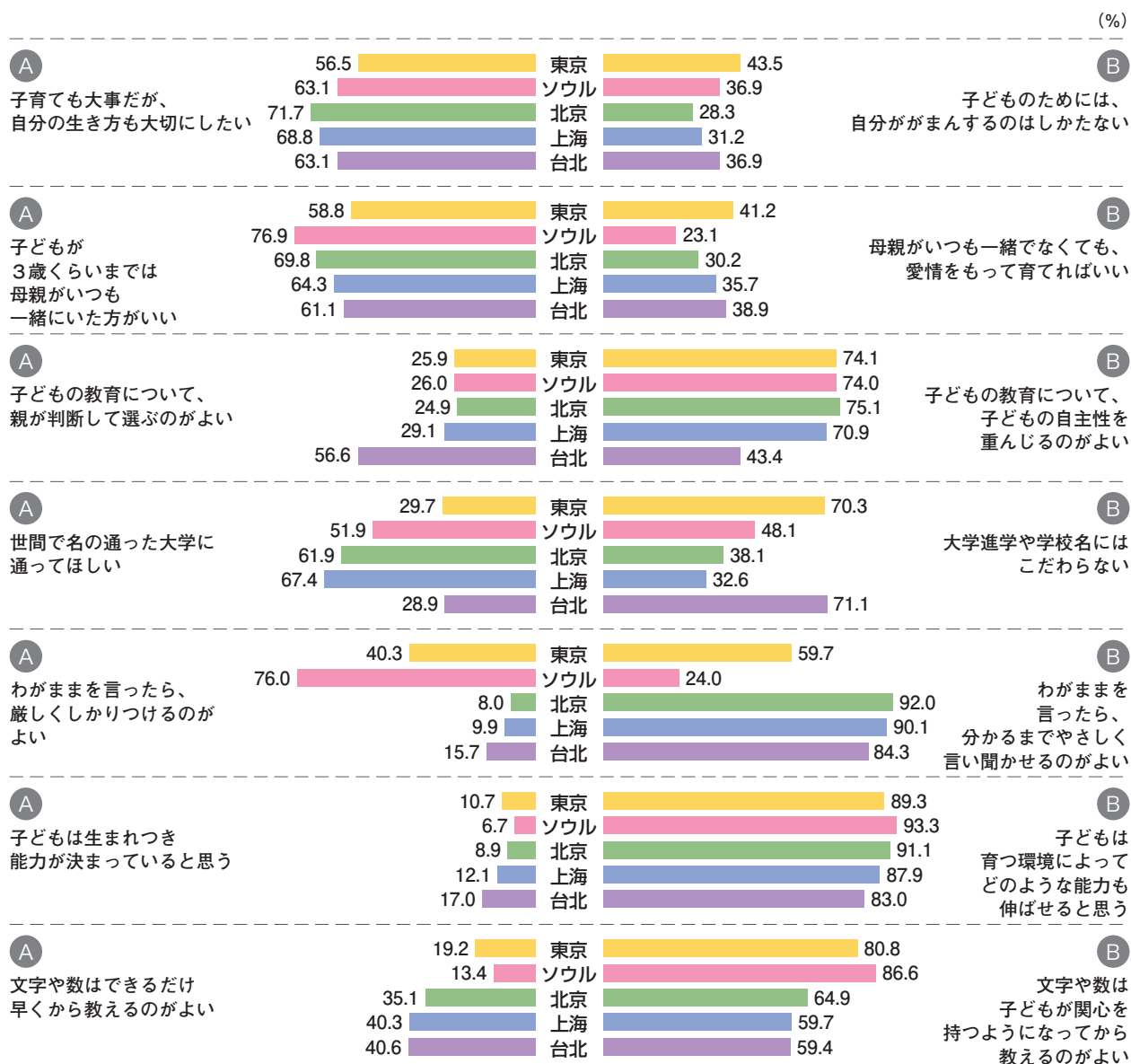
2 母親の意識

母親の子育て観

- 母親の子育て観は、都市によって大きく異なる。
- 子どものしつけについて、ソウルは「わがママを言ったら、厳しくしかりつけるのがよい」が多数派で、他の4都市と傾向が異なる。

Q 子育てに関するAとBの2つの意見のうち、あなたのお気持ちに近いほうはどちらですか。どちらかといえば近いほうの意見に○をつけてください。

図2-4-1 母親の子育て観



※母親の回答のみ分析。

子どもがわがママを言ったら、「A. 厳しくしかりつけるのがよい」か、「B. 分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい」かを選んでもらったところ、Aを選択した母親の比率は、ソウルが76.0%で高く、東京は40.3%だった。一方、北京・上海・台北は8～9割がBを選択した。また、文字や数について「A. できるだけ早くから教えるのがよ

い」か、「B. 子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい」かをみると、Aを選択した母親の比率は、東京では19.2%、ソウルでは13.4%だが、北京では35.1%、上海40.3%、台北40.6%となっており、北京・上海・台北の母親では、文字や数への関心がより高い様子がうかがえる。

調査企画・分析メンバー

無藤 隆 (白梅学園大学教授)
 一見 真理子 (国立教育政策研究所総括研究官)
 佐藤 暁子 (東京家政大学准教授)
 相馬 直子 (横浜国立大学大学院准教授)
 荒牧 美佐子 (東京福祉大学専任講師)
 韓 松花 (横浜国立大学大学院博士課程後期)

李 基淑 (ソウル・梨花女子大学教授)
 張 燕 (北京・北京師範大学教授)
 朱 家雄 (上海・華東師範大学教授)
 蔡 春美 (台北・国立台北教育大学教授)

後藤 憲子 (ベネッセ次世代育成研究所主任研究員)
 高岡 純子 (ベネッセ次世代育成研究所主任研究員)
 朝永 昌孝 (ベネッセ次世代育成研究所研究員)
 田村 徳子 (ベネッセ次世代育成研究所研究員)
 松本 留奈 (ベネッセ次世代育成研究所研究員)
 真田 美恵子 (ベネッセ次世代育成研究所研究員)

邵 勤風 (Benesse教育研究開発センター教育調査課長)
 橋本 尚美 (Benesse教育研究開発センター研究員)
 岡部 悟志 (Benesse教育研究開発センター研究員)

※所属・肩書きは、2010年11月時点のものです。

調査全体を振り返って

無藤 隆 先生

1) 睡眠時間はどの都市も夜と昼寝を合わせると、11時間前後に収まる。これが幼児に共通した特徴といえるだろう。早寝早起きかどうかは朝や夜の時間をどう使うかの社会のあり方と関連する。2) 家の外にいる時間は長くて10時間弱で、東京の幼稚園児は6時間強である。外にいるという時間の共通の幅は6時間から10時間くらいと見積もることができる。3) 幼児期の習い事はどの都市も熱心であり、それは東アジア共通の特徴である。どういった中身であるかは都市により大きな違いがあり、知的早期教育や英会話はどこでも重視され、塾に類したものは特にソウルで盛んだ。ただし、特に中国では園の中で早期教育が行われていることが多い。東京は決して知的早期教育が盛んというわけではない。4) どの都市も母親は育児に肯定的である。ストレスはソウルで特に高い。5) 子どもの将来への期待は家族を大切にすることが共通して高いが、東京は人間関係に傾き、ソウルや中国・台北は社会的な活動を強調している。

一見 真理子 先生

2010年2～5月に東アジア5都市の調査が行われました。ここ数年の間に、構造不況は度を強め、日本、韓国、台湾では政権交代があり、中国も指導者の交代で揺れています。格差や貧困問題がクローズアップされ、乳幼児期からの発達保障が注目されています。そんななかで、各都市の子どもの生活や親の子育て行動や意識がどのようになっているのに関心をもちました。あくまでも相対的にはありますが、東京の場合は、さまざまな教育期待が東アジアの中ではマイルドであることや、人間関係における協調性を重視し、上昇志向でない傾向が出ています。他のアジア各都市の親の教育期待が高く、早期教育熱も強いことと比べて対照的です。また、育児に対する肯定的な感情がどの都市でも高く出ているのはいいことですが、育児ストレスや不安感情については、都市によって異なった結果が出ています。これらをどう解釈するかも、検討課題でしょう。

「幼児の生活アンケート・東アジア5都市調査2010」レポート

発行日：2010年11月25日 発行人：新井 健一 編集人：後藤 憲子
 発行所：㈱ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所

●ベネッセ次世代育成研究所のホームページ
<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>
 (各種調査の結果は、こちらからご覧いただけます)

OTH002

©ベネッセ次世代育成研究所
 ※無断転載を禁じます